

3 単元の評価規準の設定について

単元の評価規準は、国が例示している「内容のまとまりごとの評価規準」、各学校で設定する学年ごとの評価規準、単元の目標、各単元で取り扱う題材、言語の特徴やきまりに関する事項（言語材料）、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況など、また、取り扱う話題などに即して設定します。

<内容のまとまりごとの評価規準から単元の評価規準を設定するまでの流れ>

※ 基本的な流れは単元の目標を設定する場合と同様です。単元で扱う領域について評価規準を設定します。



- ① 「内容のまとまりごとの評価規準」とは、外国語科における内容のまとまり（英語の目標に示されている五つの領域）ごとに、3観点で設定した計 15 項目の評価規準のことです。

小学校



「小学校学習評価資料」
P33、34 参照

中学校



「中学校学習評価資料」
P33、34 参照

「内容のまとまりごとの評価規準」の具体例はこちらから

- ② 学年ごとの評価規準は、国が例示している「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえ、各学校において設定します。年間を通じて全ての領域をバランスよく扱う必要があることから、**学年ごとの評価規準**は5領域全てについて設定します。例えば、中学校第1学年の「書くこと」の評価規準として以下の内容が考えられます。

学年の評価規準の例（中学校第1学年「書くこと」の場合）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 学習した言語材料の特徴やきまりを理解している。 実際のコミュニケーションにおいて、自分や身の回りの人物、身近な物事について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて紹介する文章を書く技能を身に付けている。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分や身の回りの人物、身近な物事について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて 紹介する文章を書いている 。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的に英語を用いて 書こうとしている 。

- ③ **単元ごとの評価規準**は、各単元で扱う領域について、**学年ごとの評価規準**と同様に、1領域につき3観点で記述します。例えば、中学校第1学年で「書くこと」を扱った単元の評価規準として以下の内容が考えられます。

単元の評価規準の例（中学校第1学年「書くこと」の場合）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 人称及び現在進行形の特徴やきまりを理解している。 学校行事や部活動等について、現在形、現在進行形などの簡単な語句や文を用いて書く技能を身に付けている。 	学校ホームページのアクセス数を増やすために、学校行事や部活動等について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて まとまりのある文章を書いている 。	学校ホームページのアクセス数を増やすために、学校行事や部活動等について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて まとまりのある文章を書こうとしている 。

単元の評価規準の具体例は？

本資料では、「読むこと」P6、「話すこと【発表】」P8、「書くこと」P10、「話すこと【やり取り】」P12を御覧ください。

4 単元の指導と評価の計画について

単元の指導と評価の計画を作成する際には、以下の(1)各時間の目標の在り方、(2)学習評価の時期の考え方について十分に理解する必要があります。

(1) 各時間の目標の在り方

各時間の目標は、単元の目標を達成するために必要な要素を児童・生徒が確実に身に付けられるよう、単元の目標と同様に、「～できる」の形で設定します。単元を通じて言語材料（語彙や表現、文構造等）の定着を図ります。また、各時間の終末には、本時の目標に照らして「～できる」ようになったかどうかを児童・生徒自身に振り返らせる場面を設定する必要があります。

< 単元の目標と各時間の目標の関係（中学校第3学年「話すこと [発表]」の場合の例）>

※単元の目標で目指す児童・生徒の姿を実現するため、**話題**について、「～できる」ように単元を通じて繰り返し指導します。**主な言語材料（ここでは関係代名詞）**については、理解する場面と活用する場面を適宜設定しています。

単元の目標の例

外国の人々に日本をより知ってもらうために、**日本文化に関連する物事**や**日本に関連する人物**について、伝える内容や文章の構成を意識しながら、まとまりのある内容を**即興で話すことができる**。

各時間の目標の例

第1時	<ul style="list-style-type: none"> ■単元の目標を理解し、日本文化に関連する物事について即興で説明できる。 ■関係代名詞（目的格 which）の特徴やきまりが分かる。
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ■教科書本文を読み、紹介や説明のための表現を参考にしながら、日本文化に関連する物事について即興で説明できる。
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ■日本文化に関連する物事や日本に関連する人物について即興で説明できる。 ■関係代名詞（目的格 that）の特徴やきまりが分かる。
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ■教科書本文を読み、紹介や説明のための表現を参考にしながら、日本文化に関連する物事や日本に関連する人物について即興で説明できる。
第5時	<ul style="list-style-type: none"> ■日本文化に関連する物事や日本に関連する人物について、自分の経験や意見も含めながら、即興で説明できる。 ■関係代名詞（目的格の省略）の特徴やきまりが分かる。
第6時	<ul style="list-style-type: none"> ■教科書本文を読み、紹介や説明のための表現を参考にしながら、日本文化に関連する物事や日本に関連する人物について即興で説明できる。
第7時	<ul style="list-style-type: none"> ■関係代名詞を正しく用いて、日本文化に関連する物事や日本に関連する人物について、即興で説明できる。
第8時	<ul style="list-style-type: none"> ■相手に分かりやすく伝えるための文章の構成を意識しながら、日本文化に関連する物事や日本に関連する人物について即興で説明できる。
第9時	<p>授業内発表（「記録に残す評価」の場面）</p> <p>提示された日本文化に関連する物事や日本に関連する人物について、伝える内容や文章の構成を意識しながら、まとまりのある内容を即興で説明できる。</p>

(2) 学習評価の時期の考え方

「記録に残す評価」は、単元を通じて毎時間行うのではなく、以下の考え方に基づき、評価場面を精選して行います。

- 原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、**それぞれの実現状況を把握できる段階**（児童・生徒ができるようになった段階）で「記録に残す評価」を行います（単元の第1時から「記録に残す評価」を行うことは適切ではありません。）。
- 「記録に残す評価」を行わない場合も、各時間の目標に即して児童・生徒の活動の状況を確実に見届け、指導に生かすこと（**形成的評価**）は、毎時間必ず行います。
- 「記録に残す評価」は、小学校・中学校それぞれにおいて、以下の時期に実施することが考えられます。言語活動への取組状況やパフォーマンステスト、ペーパーテスト等を通じて評価します。

小学校

「単元の終末」や「後日（学期末等）」に実施する言語活動、パフォーマンステスト、チャレンジクイズ等を基本としつつ、単元の中頃に実施する言語活動への取組状況、児童が記入したワークシート等を通じて評価する。

中学校

「単元の終末」や「後日（学期末等）」に実施するパフォーマンステスト、ペーパーテスト等を基本とする。

単元の指導と評価の計画の具体例は？

本資料では、「読むこと」P6、「話すこと [発表]」P8、「書くこと」P10、「話すこと [やり取り]」P12を御覧ください。